

明日の日本産業を支える

産業人クラブ



2011年

福田富一(栃木県知事(前列中央))を囲む栃木産業人クラブ会員。全国の産業人クラブ組織の先駆けとして藤井昌一(会長(前列左から4人目))を先頭に精力的に活動する

激動の経済に挑む

強い絆

1964年(昭39)4月2日、栃木県で「栃木工業人クラブ」(現栃木産業人クラブ)が発足した。地域産業の結束を通じてわが国産業の発展に寄与しようとの目的で、日刊工業新聞社が各地の有力企業、団体、官公庁に呼びかけて始まった動きだ。激しい経済変化の中、地場企業の経営者らの経営研究、情報交換の場としての役割を担ってきた。2010年には東京・多摩、長野、掛川、北九州などでも新しい産業人クラブが立ち上がり、栃木の25人から始まった産業人クラブは、今では全国27クラブ、会員約1800人の規模に成長した。強い絆で結ばれた多様な顔ぶれが明日の日本産業を支えていく。

インデックス

- 2...多摩産業人クラブ、長野産業人クラブ
- 3...山形産業人クラブ、宮城産業人クラブ
- 4...福島産業人クラブ、掛川産業人クラブ
- 5...茨城産業人クラブ
- 6...群馬産業人クラブ
- 7...栃木産業人クラブ
- 8...埼玉産業人クラブ
- 9...千葉産業人クラブ
- 10...神奈川産業人クラブ
- 11...新潟産業人クラブ
- 12...岐阜産業人クラブ、名古屋産業人クラブ
- 13...東京産業人クラブ女性部会、いわき産業人クラブ
- 14...大阪産業人クラブ
- 15...中国四国産業人クラブ、四国産業人クラブ
- 16...九州・山口産業人クラブ
- 17...九州・山口産業人クラブ北九州支部
- 18...東京産業人クラブ
- 19...東京産学交流会(サザンクロス)
- 20...東東京マネジメント研究会
- 21...城北産業人クラブ
- 22...産業人クラブのネットワーク



1964年 産業人クラブはここから始まった。栃木工業人クラブの発足を伝える64年4月3日付日刊工業新聞

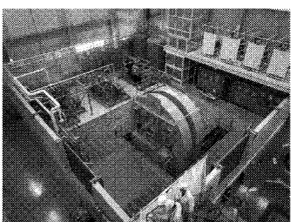


クラブ同士の交流は発足当時から活発(第2回北関東工業人クラブ合同大会、1960年代半ば)

1960年代

the metal solution[®]
HIPテクノロジーで世界をリードする

HIP(熱間静水圧プレス)とは金属粉末の焼結や、溶接が困難な金属同士の接合、それに鋳造品の内部欠陥除去など、モノづくりの基礎をなす重要なテクノロジーです。金属技研はこのHIP装置を1984年より導入し、昨年は世界最大級HIP装置”Giga-HIP”[®]を稼働させて、さらなる金属の可能性を切り拓きました。



Giga-HIP

そして今年4月には神戸でHIP国際会議が開催されます。本会議は世界各国のHIP研究者が一堂に会し、最新の研究成果を報告・討論することにより、世界のHIPの現状を理解し、将来のあるべき姿を模索して、産業の発展に大きく資することが期待されます。金属技研は本会議の実行委員長として重責を担っています。

これからも金属技研はHIPテクノロジーをはじめとする高い技術力をもって、社会・人・くらしへの貢献を通じて、皆様に愛され、信頼される企業を目指し、たゆまぬ努力を続けてまいります。